

修士論文要旨
2011年1月

動物看護師における
職場ストレス及び関連要因とバーンアウトとの関連について

指導 種市康太郎准教授

心理学研究科
臨床心理学専攻
209J4001
後藤 愛

目次

I. 序論.....	1
1. はじめに.....	1
(1) 獣医療、ペット産業の現状.....	1
(2) 動物看護師とは.....	1
(3) ヒューマン・サービス職としての動物看護師.....	2
2. バーンアウト.....	2
(1) バーンアウトとは.....	2
(2) バーンアウトの測定.....	3
(3) バーンアウトの原因.....	4
3. 職場ストレスと関連要因.....	5
(1) 職業性ストレス.....	5
(2) オーバーコミットメント.....	6
(3) 感情労働.....	6
4. 問題提起.....	9
II. 目的.....	9
III. 研究方法.....	9
1. 対象.....	9
2. 手続き.....	9
3. 調査内容.....	9
(1) 日本版バーンアウト尺度.....	9
(2) 感情労働尺度.....	10
(3) 日本語版努力-報酬不均衡モデル職業性ストレス調査票.....	10
(4) ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度日本語版.....	11
(5) 属性など.....	11
IV. 結果.....	12
1. 動物看護職と他職種との比較.....	12
(1) 職場ストレスについて.....	12
(2) バーンアウトについて.....	13
2. 動物看護職内の属性別での比較.....	14
3. バーンアウトとの関連性.....	22
(1) 職業性ストレスとバーンアウトとの相関関係.....	22
(2) オーバーコミットメントとバーンアウトとの相関関係.....	22
(3) 感情労働とバーンアウトとの相関関係.....	23
4. 内部相関について.....	24
5. 自由記述.....	26
(1) 動物看護師のストレス要因について.....	26
(2) 動物看護師のやりがい・充実感について.....	28
V. 考察.....	30
1. 動物看護職と他職種との比較.....	30

(1) 職場ストレスについて.....	30
(2) バーンアウトについて.....	30
2. 動物看護職内の属性別での比較.....	31
3. バーンアウトとの関連性.....	33
(1) 職業性ストレスとバーンアウトとの相関関係.....	33
(2) オーバーコミットメントとバーンアウトとの相関関係.....	33
(3) 感情労働とバーンアウトとの相関関係.....	34
4. 内部相関について.....	34
5. 自由記述.....	35
(1) 動物看護師のストレス要因について.....	35
(2) 動物看護師のやりがい・充実感について.....	36
VI. まとめと今後の課題.....	36
1. まとめ.....	36
2. 今後の課題.....	37
謝辞.....	37
引用文献.....	38
資料.....	41

I. 問題と目的

動物看護師は、近年のペットの増加やそれに伴う業務の増加によって、職業的役割が重要視されている職業である。また、動物看護師は、ペット動物を扱う仕事であると同時に、飼い主の訴えや要求を聴き、対応しなければならないヒューマン・サービス職であるとも言える。従来、看護師、介護士等のヒューマン・サービス職は「バーンアウト」という特有のストレス状態に陥りやすいことが指摘されてきた。また、現場において獣医療特有のさまざまなストレス要因が存在することが指摘されてきたが、日本では動物看護師のストレス要因に関する実証研究はほとんどなされていない(中川,2009)。今後も獣医療への期待は高まっていくことが予想されるが、動物看護は近年になって注目され始めた新しい分野であるため組織的なケアが十分に行われていない現状がある。そこで本研究では、まず、動物看護師の職場ストレス状況を把握するため探索的に、ストレス状況について動物看護師と他の職種との比較、動物看護師内での属性の違いによる比較を行う。その上で、動物看護師のバーンアウト傾向について、職業性ストレス、感情労働、オーバーコミットメントとの関連を検討し、動物看護師のストレス様相について明らかにすることを目的とする。

II. 方法

手続き： 調査は2010年6月、無記名の質問紙法にて行い、日本動物看護学会会員1910名を配布対象とした。回収数は150(回収率7.9%)であり、そのうち現職でない2名及び、データに欠損のあった34名を除いた114名を分析対象とした。

調査内容： バーンアウト傾向を測定するものとして「日本語版バーンアウト尺度(久保,2007)」、職業性ストレス及びオーバーコミットメントを測定するものとして「日本語版努力-報酬不均衡モデル職業性ストレス調査票(堤,2007)」、感情労働を測定するものとして「感情労働尺度(荻野・瀧ヶ崎・稲木,2004)」、ワーク・エンゲイジメントを測定するものとして「ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度日本語版(島津・小杉・鈴木他,2007)」を使用した。また、属性として、年齢・性別・勤務年数・勤務先のスタッフ数・雇用形態・勤務形態・休日日数・労働時間・年収・職場でストレスを感じる要因(自由記述)・やりがいや充実感を感じる要因(自由記述)を尋ねた。なお、ワーク・エンゲイジメントは本研究では分析の対象からは外すこととした。

III. 結果と考察

まず、探索的に行った他職種との比較においては、動物看護師は一般職よりも努力量が多く、報酬が少ないことが分かった。また、情緒的消耗感、脱人格化は看護師や介護士よりも低い一方で、個人的達成感が高かったことから、一般的なヒューマン・サービス職のバーンアウトの特徴とは若干傾向が異なることが考えられた。さらに、動物看護師の属性別比較からは、規模が大きい病院に勤務し、雇用形態が安定せず、年収が低く、勤務年数が短く、労働時間が長いなどの場合に、職業性ストレス、バーンアウト、感情労働などのストレス傾向が高まりやすいことが示唆された。バーンアウトとの関連については、職業性ストレスや、オーバーコミットメント、感情労働の一部の因子との間に有意な正の相関関係が見られ、動物看護師においてもこれらのストレス要因を、バーンアウトに影響する要因として考えることの重要性が示唆された。

引用文献

- 荒記俊一・川上憲人 1993 職場ストレスの健康管理：総説 産業医学, 35, 88-97
- A.R. Hochschild (著) 石川準・室伏亜希 (訳) 2000 『管理される心』 世界思想社
- 淵崎輝美・桶谷玲子・坂上章・長谷川静子・瀬戸幸子・北岡和代 2008 精神科看護者の心身のウェル・ビーイング (Well-being) に関する縦断調査 - 統合失調症退院支援パス導入が及ぼす影響 - 日本精神科看護学会誌, 51(1), 14-18
- 藤原和美・小坂淳子・今岡洋二・杉原久仁子 2008 介護従事者の労働実態とバーンアウト 大阪健康福祉短期大学紀要 第7号, 125-132
- 福島裕人・名嘉幸一・石津宏・與古田孝夫・高倉実 2004 看護者のバーンアウトと5因子性格特性との関連 パーソナリティ研究 第12巻, 第2号, 106-115
- 井村弘子 2005 介護職員のメンタルヘルス - 職場環境とバーンアウトとの関連 - 沖縄大学人文学部紀要 第6号, 79-89
- 井上こみち (著) 2007 『動物看護師になるには』 ペリかん社
- 一般社団法人ペットフード協会ホームページ 2009 「第16回 (平成21年度) 全国犬猫飼育率調査結果」 <http://www.petfood.or.jp/topics/1003.shtml> (2010年7月現在)
- 伊藤美奈子 2000 教師のバーンアウト傾向を規定する諸要因に関する探索的研究 - 経験年数・教育観タイプに注目して - 教育心理学研究 第48巻, 第1号, 12-20
- 金子百恵 1999 教師のバーンアウトとメンタルヘルス 性格心理学研究 第7巻, 第2号, 102-103
- 川上憲人・堤明純 (監) 2007 『職場におけるメンタルヘルスのスペシャリスト BOOK』 培風館
- Kobasa, S.C. 1979 Stressful life events, personality, and health: An inquiry into hardiness. *Journal of Personality and Social Psychology*, 37, 1-11
- 小堀彩子・下山晴彦 2006 対人援助職の感情労働とバーンアウト予防 - 実践例を交えて - 臨床心理学, 第6巻, 第5号, 600-605
- 厚生労働省ホームページ 健康：結核・感染症に関する情報：狂犬病 「犬の登録頭数と予防注射頭数等の年次別推移 (昭和35年～平成20年度)」
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou10/02.html> (2010年7月現在)
- 久保真人・田尾雅夫 1994 看護婦におけるバーンアウト・ストレスとバーンアウトとの関係 - 実験社会心理学研究 第34巻, 第1号, 33-43
- 久保真人 1998 ストレスとバーンアウトとの関係 - バーンアウトはストレインか? 産業・組織心理学研究, 12, 5-15
- 久保真人 1999 ヒューマン・サービス従事者におけるバーンアウトとソーシャル・サポートとの関係 大阪教育大学紀要(第IV部門), 48, 139-147
- 久保真人 2004 『セレクション社会心理学 23 バーンアウトの心理学 - 燃え尽き症候群とは -』 サイエンス社
- 久保真人 2007 バーンアウト (燃え尽き症候群) - ヒューマンサービス職のストレス - 日本労働研究雑誌 No.558, 54-64
- 今道友則 (監) 2002 『動物看護学 総論』 日本動物看護学会 31-39
- Lemkau, J.P., Rafferty, J.P., Purdy, R.R., & Rudisill, J.R. 1987 Sex role stress and job

- burnout among family practice physicians. *Journal of Vocational Behavior*, 31, 81–90
- McCranie, E. W., Lambert, V.A., & Lambert, C. E. Jr. 1987 Work stress, hardiness, and burnout among hospital staff nurses. *Nursing Research*, 36, 374–378
- 増田真也 1995 在宅福祉サービス専門職におけるバーンアウトの形成要因に関する研究 — 業務の曖昧さを中心とした因果分析 — *健康心理学研究* 第 8 巻, 第 2 号, 20–29
- Maslach, C., & Jackson, S.E. 1982 *The Maslach Burnout Inventory*, Palo Alto, CA : Consulting Psychologists Press
- Maslach, C., & Jackson, S.E., & Leiter, M.P. 1996 *The Maslach Burnout Inventory* (3rd ed), Palo Alto, CA: Consulting Psychologists Press
- 三木明子・河野由理・栗田広 2001 看護婦の職業性ストレスが職務満足感に及ぼす影響 — 日本語版努力報酬不均衡モデル調査票を用いた検討 *日本看護学会論文集. 看護総合*, 32, 56-58
- 本家裕子 2004 一般病院の MSW のストレスの実態と影響を及ぼす要因 全国調査(第 2 報) *医療と福祉* 第 38 巻, 第 1 号, 41-46
- 諸井克英 1999 特別養護老人ホーム介護職員におけるバーンアウト *実験社会心理学研究* 第 39 巻, 第 1 号, 75–85
- 中川真美 2009 獣医師・病院スタッフのためのストレス・マネジメントの基礎知識(第 1 回) なぜ、ストレス・マネジメントが重要なのか? *J-VET*, 22(6), 77-80
- 中川真美 2009 獣医師・病院スタッフのためのストレス・マネジメントの基礎知識(第 3 回) どのようなことが獣医師・病院スタッフのストレスになるのか *J-VET*, 22(9), 66-71
- 日本動物看護学会ホームページ 動物看護師とは 「本学会について」 <http://www.jsan.gr.jp/> (2010 年 1 月現在)
- 荻野佳代子 1999 バーンアウト研究の課題と展望 —その概念を中心に— 早稲田大学教育学部 学術研究(教育心理学編) 第 47 号, 57–72
- 荻野佳代子・瀧ヶ崎隆司・稲木康一郎 2004 対人援助職における感情労働がバーンアウトおよびストレスに与える影響 *心理学研究* 第 75 巻, 第 4 号, 371-377
- 澤田有希子 2002 ケア/ジェンダー/バーンアウト: 特別養護老人ホーム介護職員のケア・ストレスとバーンアウトとの関係をジェンダーの視点から検証する *KGPS review* 1, 1-17
- Siegrist J, Peter R. 1997 *Measuring effort–reward imbalance at work : guidelines*. Dusseldorf
- 島津明人・小杉正太郎・鈴木綾子・梨和ひとみ・加登朝子・平賀光美・入交洋彦・北岡和代 2007 ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度日本語版(UWES-J)の信頼性・妥当性の検討 第 80 回日本産業衛生学会講演集, 49, 777
- 高良麻子 2007 介護支援専門員におけるバーンアウトとその関連要因 —自由記述による具体的把握を通して— *社会福祉学* 第 48 巻, 第 1 号 104–116
- 武井麻子 2001 感情と看護 —人とのかかわりを職業とすることの意味— 医学書院
- 田尾雅夫 1987 ヒューマン・サービスにおけるバーンアウトの理論と測定 *京都府立大学学術報告*, 人文 39, 99-112
- 田尾雅夫 1989 バーンアウト —ヒューマン・サービス従事者における組織ストレス *社会心理学研究*, 4(2), 91–97

- 田尾雅夫・久保真人 1996 『バーンアウトの理論と実際 ―心理学的アプローチ』 誠信書房
- 富岡公子・清水浩二・荒井康友・山元顕太 2008 介護労働者における職業性ストレスに関する研究 いのちとくらし研究所報 22, 32-41
- 堤明純 2007 日本語版努力-報酬不均衡モデル調査票マニュアル 「日本語版努力-報酬不均衡モデル調査票のページ」 事業場のメンタルヘルスサポートページ <http://www.jstress.net/> (2011年1月現在)
- 堤明純 2004 努力-報酬不均衡モデル調査票 一個人向け応用の可能性 産業精神保健 第12巻, 第1号, 20-24
- Tsutsumi, A., Ishitake, T., Peter, R., Siegrist, J., & Matoba, T. 2001 The Japanese version of the Effort-Reward Imbalance Questionnaire: a study in dental technicians. *Work and Stress*, 15(1), 86-96
- 堤明純・大島正光 他：日本語版「努力-報酬不均衡モデル」調査票. ストレススケールガイドブック, pp277-285, 実務教育出版, 2004
- 和田由紀子・小林祐子 2005 バーンアウト（燃え尽き症候群）と対人関係 ―緩和ケア病棟に勤務する看護師の情動的共感性と他者意識― 新潟青陵大学紀要 第5号, 67-75
- 山田茂樹・柴野昌子・宮下孝子・吉田博子・小田裕美子・増村利子・林めぐみ・村田昌弥・沼波輝・寺島剛・武田晋作 2009 『努力-報酬不均衡モデル』を用いた地方自治体病院における医師と看護師の職業性ストレス評価 病院 68(5), 406-411
- 横山敬子 2003 『仕事人間のバーンアウト』 白桃書房
- 善本純子・富岡和久 2006 介護福祉士・看護師のバーンアウト傾向とストレス要因の関係 北陸学院短期大学紀要 第38号, 193-201
- Zapf, D., Seifert, C., Schmutte, B., Mertini, H., & Holz, M. 2001 Emotion work and job stressors and their effects on burnout. *Psychology and Health*. 16. 527-545
- Zapf, D., Vogt, C., Mertini, H., & Isic, A. 1999 Emotion work as a source of stress: The concept and development of an instrument. *European Journal of Work and Organizational Psychology*, 8, 371-400